

=====

地域循環共生圏登録団体メールマガジン Vol.2

[2020.2.28]

=====

URL : <https://www.env.go.jp/policy/chiikijunkan/>

※メールマガジンへのご意見・ご感想をお待ちしております！

※メルマガで宣伝したいイベント等がありましたら事務局にご連絡ください！

[目次]

■地域循環共生圏・なうっ！

・宗像、鹿島、尾鷲で分科会を開催！！

■登録地域のご紹介

・一般社団法人グリーンエネルギー推進協議会

■イベントのお知らせ

・シンポジウム「ローカルSDGsのデザイン～地域循環共生圏の作り方～」の開催中止について

・令和元年度SDGsローカルツアーの開催について

■記事投稿の募集

=====

■地域循環共生圏・なうっ！

宗像、鹿島、尾鷲で分科会を開催！！

(1) 専門家のアドバイスに目から鱗！

宗像地域で、2/10に廃棄物系バイオマス発電分科会が開催されました。

国頭村や朝倉市、奄美市などからも参加があり、午前中の現地見学のあと4名の専門家（熊本県小国町 森 恵美氏、北海道鹿追町 城石 賢一氏、一般社団法人ローカルグッド創生支援機構 青山 英明氏、一般財団法人地域活性化センター 吉弘 拓生氏）と活動団体とで活発な議論が交わされました。

今回の分科会では、宗像で具体的に事業検討を進めているもののうち、最も苦手分野のバイオマス発電について、勉強会を行いました。

3名の専門家（熊本県小国町 森 恵美氏、北海道鹿追町 城石 賢一氏、一般社団法人ローカルグッド創生支援機構 青山 英明氏）からご発表いただいたバイオマス発電の事例は、発電事業主体が「行政」、「民間」及び「行政と民間の半々」と様々な立場の方が実施したものであり、それぞれの「成功点（地域資源の余すことない活用、事業費の多様な捻出方法、電気・熱・消化液の徹底的な販売）」、「工夫点（関係者ととことん腹を割った意見交換、地域に昔から根付く理念の活用）」及び「課題（経済の更なる循環への取組み、FIT終了後のバイオガス利活用方策）」などを聞くことができました。

宗像地域で活動している一般社団法人九州のムラ代表理事の養父氏は、「宗像でまずやらなければいけない事として、事業を地域全体に広げるための行政との関係の検討が挙げ

られたこと、また、肉牛のふん尿利用に関する技術的課題や、地域にあった電力・熱利用等についても親身になってご助言いただき、とても参考になりました。また、参加いただいた他地域や関係者からも活発に質問や意見が出て充実した会となりました。」と話していました。

### (2) ラムサールブランドで持続可能なビジネスをつくる！

鹿島地域で、2/15 にマーケティング分科会が開催されました。

当日は、現地見学のあと、3名の専門家（株式会社ビビッドガーデン 川野 真美氏、一般財団法人地域活性化センター 吉弘 拓生氏、株式会社フードハブ・プロジェクト 真鍋 太一氏）と活動団体とで活発な議論が交わされました。

鹿島市ラムサール条約推進室の江島氏は、「分科会を通して、現時点の考え方は、手段と目的が混同していることを認識しました。切り口がいろいろとあることが分かったのが収穫です。一度棚卸をした方がよいという指摘があったように、一度立ち戻って考えたいと思います。ただ、最終目的は有明海の保全ですので、その実現に向けたアプローチを様々な切り口から再度考えたい。」と話していました。また、同室の釘尾氏は「初心に帰りました。目的を再認識でき、とても勉強になりました。」と話していました。

### (3) 空間デザインで尾鷲らしさを！

尾鷲地域では、2/19-20 にツーリズム分科会が開催されました。

当日は、現地見学のあと、専門家と活動団体とで活発な議論が交わされました。

現地見学では、これから尾鷲市のツーリズムの拠点となる中部電力発電所の跡地や佐波留島の船上見学や、三重県立熊野古道センターの見学を行い、尾鷲市の景観や観光資源を実際に確認しました。

意見交換会では、3名の専門家（岐阜大学加藤 義人教授、株式会社エイル 代表取締役 蔵所 英司氏、一般社団法人野遊びリーグ 常務理事・事務局長 後藤 健市氏）を招き、「魅力的で地域らしさのある観光デザインづくりを学ぶ勉強会」を行いました。

専門家の皆様それぞれの分野からご助言をいただき、実際に跡地の地図を拡大したものにコンセプトや具体案を書き込みながら、空間デザインについて活発な議論を行いました。

=====

## ■登録地域のご紹介

☆一般社団法人 グリーンエネルギー推進協議会☆

(代表理事 井手由紀雄)

熱海地域を中心に「グリーンエネルギーシティ構想」に向けたプロジェクトを“ONE DROP”（大河の流れも一滴の雫から）という想いで推進しています。

地域の未利用な土地や建物に、グリーンエネルギー発電・発熱システムを設置して、環境に優しい防災拠点づくりを図るとともに、環境観光都市熱海の特徴を活かした多様な新規事業の創出をめざしています。

活動の一環として、地域の森林資源を活用した超小型木造船を制作し、電動モーターと、グリーンエネルギーで充電するモバイルバッテリーを搭載して、海洋のプラスチックゴミを回収する事業も計画し準備中です。

仲間になってくださる方、大募集中です。ぜひお気軽に遊びに来てください。

<https://greenene.wixsite.com/green>

<https://www.facebook.com/atamigree/>

=====

#### ■ イベントのお知らせ

登録地域の皆様にお知らせいたしました下記イベントについては、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を中止することといたしました。参加を予定していた皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解の程、よろしくお願いいたします。

(1) シンポジウム「ローカルSDGsのデザイン～地域循環共生圏のつくり方～」の開催中止について

○日 程：3月10日（火）12:00～15:30

○詳細：<http://www.env.go.jp/press/107676.html>

○日 程：3月16日（月）15:00～18:00

○詳細：<http://www.env.go.jp/press/107676.html>

(2) 令和元年度SDGsローカルツアーの開催中止について

○日 程：1月16日（木）～3月18日（水）

○詳細：<http://www.env.go.jp/press/107547.html>

「ソトコト」ウェブサイト（セミナー概要）<https://sotokoto-online.jp/feature/51>

#### ■ 記事投稿の募集

地域循環共生圏実践地域等登録制度に登録いただいた団体の皆様から寄せられた地域の取り組みや活動の情報、地域で開催予定のイベントなどもご紹介していきたいと考えています。地域での取組の紹介、イベントの開催など、皆様の投稿記事をお待ちしています！

記事の投稿は、タイトル、投稿者（所属も）を明記の上、[touroku@chiikijunkan.jp](mailto:touroku@chiikijunkan.jp)へお送り下さい。なおご投稿いただけるのはテキスト情報のみですが、ブログ、フェイスブック等のSNSへのリンク先URLの掲載は可能です。

=====

※このメールマガジンは、地域循環共生圏実践地域等登録制度に登録いただいた団体の皆様に登録制度事務局より送信しています。

※配信先の追加・変更・配信停止・その他本メールマガに関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

宛先：[touroku@chiikijunkan.jp](mailto:touroku@chiikijunkan.jp)

★地域循環共生圏登録制度事務局 発行★

担当:弓木、木村（いであ株式会社（環境省事業受託者））

〒224-0025 神奈川県横浜市都筑区早渕2丁目2番2号

=====